

# KSKP えのき

# NEWSLETTER

地域で当たり前暮らしのために

編集人：社会福祉法人えのき会  
理事長：古川 末子  
京都市伏見区桃山町山下44-8  
075-605-0303 (TEL.)  
075-605-0310 (FAX)  
e-mail: info@enokikai.or.jp  
http://enokikai.or.jp

1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価100円

謹んで新年の  
お慶びを  
申し上げます



皆様の健康とご多幸をお祈りいたします。

社会福祉法人えのき会

役員員一同

2021年元旦

皆さまには、つつがなく新年を迎えられたことと思います。

本年が、皆さまにとりまして良い年であり、ますことを願っております。

一昨年12月に、中国武漢市で発生した新型コロナウイルスは、瞬く間に広がって世界的な感染パンデミックとなり、今日に至っています。この国も、感染をくい止めるための対応に苦慮しています。

山本太郎長崎大学教授は、「この新型コロナウイルスにも夜明けは必ず来ます。私たちは、新型コロナウイルスと戦争をしているわけではありません。感染して重症化したり、経済的困窮に陥ったりした、守るべき人がいることを忘れないようにしましょう。夜が明けたら自分たちは何をなすべきか、今から考えておくことが重要なのではないのでしょうか」

えのき会の利用さんは、障害と基礎疾患を併せ持つ人が多いですが、日々介護する家族にとつて、普段以上に介護ストレスが大きいことは、容易に想像できます。インフルエンザが流行する冬本番を迎えて、さらなる緊張が続きますが、感染の予防に努めながら自らの命はもちろん、かけがえない大切な命を守っていききたいものです。

\* \*

「コロナ禍のさなか、『理性の声』と称えられる世界の女性リーダーたち」コロナ禍の闘いに成功している国は、女性が舵とる国でもある。

女性リーダーの国、ニュージーランドのアーダーン首相、ドイツのメルケル首相、台湾の蔡英文(さいえいぶん)総統、デンマークのフレデリクセン首相等が、コロナ感染拡大をくい止めるために専門家の助言を積極的に受け、必要に応じた措置をとるのをためらわない、視野の広いリーダーが求めら

れています。

ドイツのメルケル首相は、「まず、人間が大切、弱者が大切、芸術が大切」と誰にでも理解できる形で示し、なぜシャットダウンするのか、「若い人は感染しても症状が軽いことが多いが、感染が広まれば病人や老人が命を落とすので弱者を守るためにみんなで協力しよう」。小売店や零細企業、アーティストなどにも経済支援を発表し、文化大臣の「芸術は生活必需品」という演説はドイツ人でなくても胸に響くものがありました。【ワシントンポスト紙5月掲載】

\* \*

何が大切なのかという理想をまず国民に示し、今が、国として厳しい時であっても一緒に乗り越えていこうと思わせるリーダーが、ほしいと思います。

わが国の首相は、危機に際して国民へのメッセージも発信せず、コロナ感染拡大にも無関心。学術会議メンバー6名を排除し、自らのお気に入りだけを待ちます。世界から笑われるのも当然です。コロナ禍が収束したとき、どんな国になっているのでしょうか。

これ以上、富む人がさらに富み貧しい人がさらに貧しくなる、格差が拡大する国にだけは、ならないように！

富の再分配、税制や社会保障などを通じて、高所得者から低所得者へとカネを流すような政策が実行できる、そんな日本のリーダーを選びたい。だれもがそのひとらしく生きていける国であるために……。

(理事長・古川末子)

敬称略・順不同

ご寄付のお礼とご報告

2020年7月～2020年10月末

前号ニュースレターで建築にあたってご寄付のお願いをしましたところ、皆様方から、多くのご寄付を頂戴しました。ありがとうございます。感謝申し上げます。

桃山町西町（生活介護事業所）2階シェアハウス、3階会議室。

えのき会として初めての事業になりますシェアハウス、3月の完成を目指していましたが、工事に予期しなかった事もあり建築費が1500万円予算オーバーとなりました。預金の取り崩しとなりましたが、予定通り建築は進んでおります。

今、コロナ禍による企業の倒産や解雇も増えております。

そんな中にも関わりませず、皆様から温かいご支援を頂戴しましたこと、心よりお礼申し上げます。

これを励みとし、地域に根ざした法人として歩んでいきたいと思えます。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い致します。

飯田 武志	原 哲夫	山ノ下町内会
西村 清忠	藤谷 まりえ	土田 恵理子
松田 晶代	高橋 正範	梅原 久美子
和田 龍平	奥田 希充子	小中 孝則
山本 正治	宮下 暁子	及川 洋一
進藤 育子	赤司 すゑ子	中島 勉
植田 智恵	大西 佳奈子	馬庭 京子
谷内 文子	渡辺 淳	田中 朗
松岡 峰子	樋口 和子	宮坂 浩
清水 孝男	森田 幸子	清水 大輔
小仲 幸子	高橋 隆行	清水 斎
中川 穂乃加	北野井 一恵	草場 周啓
勝見 博光	谷川 政弘・栄子	伊東 由利子
津々木 幸子	武蔵野 眞知	竹本 勝一
久門 誠	辻 真一	桑田 明仁
中沖 美希	北川良工務店	大西 悠貴
小山 敏枝	猪鼻 昌司	土田 登美雄
森 昌代	猪鼻 幸子	三矢 佑悟
岡子 栄子	秋山 眞一郎	秋山 泰人
山村 幸子	竹村 壽子	河本 弘子
正木 敦士	中路 慶子	古川 末子

Xmas Week



=3月の完成に向けて=

伏見区西町 1F: さくらの家分室  
2F: シェアハウス



## 職員インタビュー

えのき会では、職員が働きやすい職場を目指して、短時間正職や契約職員、または育児、介護休暇制度など様々な取り組みをしてきました。今回は、男性で育児休暇を取得された清水光さんの実際の声を聞いてみました。



清水光さん  
2010年より勤務  
ハックベリー勤務  
長男3歳長女4カ月  
趣味：料理  
子どもと遊ぶこと

育児休暇を取得されるに上で心配な事はありましたか？

新しい夜勤体制に変わるタイミングで、新体制について話し合いをしていたが、育児を取得し申し訳ない気持ちになりました。人が足りるだろうかという心配もありました。

実際に育児を取得されていかがでしたか？

2週間取得し、正直なところ、ずっと子供と向き合う日々はしんどかったです。仕事だけでは気づくことのできない、妻の普段のしんどさ、育児の大変さを理解できたように思います。家事はできる方なので、負担に感じる事はあまりなかったですが、長男の保育園の送迎など時間のしほりがある毎日が、こんなにも大変だと今まで

で感じませんでした。仕事をしているとわからなかった家事育児の一日の流れをつかめました。また、ごはん作りでも、元料理人のこだわりが出てしまい、育児中の毎日はいしんどくなってきました。

奥様のしんどさを理解された今は、何か変化はありますか？

子どもとずっと一緒というのは、僕自身、息がつまりそうになった時もあるので、休みの日など妻がひとりになる時間を設けるようにし、心のケアをしています。

また、妻は片付けがとても上手で、これまで仕事と家事を両立していてすごいなと思いました。

取得して良かった点は？

たくさんありますが、赤ちゃんが退院してくるまでの三日間長男とべったりと過ごせたのはかけがえのない時間となりました。しんどい面もありましたが、子どもと触れ合える貴重な時間となりました。また、仕事が好きだという気持ちに気づいたり、仕事がある有難みを実感しました。

仕事をしていて楽しいと思うことは？

元料理人という得意分野を活かして、利用者さんとお誕生日の食事メニューを考えたり、一緒に作ったりして、利用者さんの喜ぶ顔が見れた時は、とても嬉しく楽しいです。

仕事をする上で心掛けていることは？

「楽しく仕事をする」という事！楽しく気持ちで仕事をしていけば、おのずと利用者さんに伝わり、還元できるのではと思います。また最近ではスタッフのフォローするのが向いているかもという気持ちもあり、仲間たちとコミュニケーションを積極的に取るように心がけています。

後輩たちにメッセージは？

困りごとや何でも話を聞くよという姿勢でいます。本当に良く頑張ってくれているので感謝しています。

最後に何かありますか？

えのき会は、年々制度がよくなってきているし、みんな優しく働ける環境です。また、理事長に直接話を聞ける環境があるので、「保護者の声」が聴くことができ、大変勉強になります。最後に今後あったら、おもし

ろいなと思うのは、「部下が上司を評価する」そんな制度があれば、お互いに緊張感が生まれるのではないかと思います。

聞き手より

育児休暇を取得するには、男性女性に関わらず、職員同士の助け合いお互い様という気持ちが大切だと改めて実感しました。清水さんは本音でお話くださり、決して子育ては楽しいことばかりでなく大変だったと。貴重な経験をされたことで、意識が変わり、行動を継続できるように願います。とっても明るい清水さん、部下や同僚たちに経験談を語ることで、いい刺激を与えて頂けたらと思います。余談になりますが、ご長男と赤ちゃんが初対面した時、今までの人生であんなに泣いたことがないというくらい号泣されたそうです！ピュアな心を持ったれる面、元料理人という職人気質の面も持たれているそんな方でした！（秋山）

厚労省の雇用均等基本調査によると、2019年度の育児休業取得率は男性が7.48%女性が83%昨年度より上昇傾向を示したものの、男性が低い割合にとどまっている。

information

「この度『なぜ障害のある子どもの親が「えのき会」をつくり活動してきたか』を一冊の本にまとめました。

30年前、1軒の借家「えのきの家」に集まって語りあった障害児の親たちの願いは、「どんなに重い障害があっても地域の中での当たり前前の暮らしを」というものでした。

これを「えのき会」の理念とし活動をしてきた30年の歩みを本にしました。

例えば、「メインの宿泊訓練」、「えのきの家の建設」、「法人格の取得」、「グループホームの暮らし」などなど。

長い年月を振り返りながらえのきの歴史を書いてみると、いろいろな思い出がよみがえってきます。

瞬時にその場所に立ち戻って「思い出」話ができる、親の仲間がいることが、とても嬉しく思います。

そんな、えのきHISTORYです。  
税込1320円を、1000円で販売します。

ご希望の方は事務局まで

075(605)0303

本を発売しました！  
「えのきの親の30年」



1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価100円

フードドライブにご協力を！

「家庭で余っている食品を  
必要とする人に届けよう！」



えのきが無認可団体の頃、多くの人に支えてもらい助けてもらいながら、活動を続けてきた経過があります。

今、コロナ禍で、仕事を失った人や、ホームレスになった人、この寒空に、所持金も行く当てもない人が増えています。

また、女性を取り巻く状況は更に厳しく、自殺者が10月以降急増しています。

女性の貧困は、子どもの貧困に繋がります、3度の食事が1回や食事抜きという報告もあります。

私たちひとり一人は微力ですが、同じ時代を生きている者として、手を差し伸べていければと思います。ぜひ、皆さまのご協力をお願い致します。

集めた食品↓フードバンク↓ 必要な方へ

\* 最終回収日は 2月12日になります。

\* 直接ご持参頂くか、送迎時にお渡しください。

+賞味期限が明記され2か月以上あるもの

+常温で保存可能なもの

(生鮮食品、冷凍食品は対象外です)

+未開封であるもの

+破損で中身が出ていないもの

編集後記

「コロナ禍になってから、「エッセンシャルワーカー」という言葉をよく耳にします。医療・福祉、農業、小売・販売、通信、公共交通機関など、社会生活を支える上で必要不可欠な仕事をしている人たちのことをいいます。世界中で外出自粛やロックダウンなどが相次いでいますが、エッセンシャルワーカーは、そうした緊急事態下においても簡単にストップするわけにはいかない仕事に従事する人々に対し、感謝や尊敬の念を込めた呼称として使われています。

えのき会で仕事をしてもらっている職員全てが、まさにエッセンシャルワーカーだと言えます。

常に「三密はいけない、ソーシャルディスタンスを」と報じられています。ですが、介護の仕事は、密接と密着がなければ、日々の支援はできません。感染しない、させないという大きなリッシュヤーとリスクを考えながら、しかし、いつもと変わらない笑顔で、介護に、それぞれの職務に従事してもらっていることに、只々「ありがとう」と、感謝の言葉を贈りたいと思います。

先が見えないこの感染症に、少しでも早く終止符が打たれることを願うのみです。(F)

□ 発行人・関西障害者定期刊行物協会  
大阪市天王寺区真田山町2-2  
東興ビル4F



□ 編集人：(福) えのき会 理事長 古川末子  
(法人本部)  
〒612-8002  
京都市伏見区桃山町山下44-8

